

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	690400023
法人名	新日本エンジニアリング株式会社
事業所名	グループホーム あすなろ窪田
訪問調査日	平成 20年 8月 20日
評価確定日	平成 20年 10月 14日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	690400023
法人名	新日本エンジニアリング株式会社
事業所名	グループホームあすなろ窪田
所在地 (電話番号)	山形県米沢市窪田町窪田1421番地1 (電 話) 0238-37-2070

評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年 7月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(平成20年7月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低 70 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	米沢市立病院、あさひ歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

少人数な家庭的な雰囲気のもと、職員と利用者が一体となり生活を送っている。近所のスーパーに買い物に行ったり、犬と散歩をしたりと利用者が楽しみを感じることが出来るよう努力をしている。地域とのつながりや、重度化への対応では、未整備な点もあるが、これらを職員全体で改善して行こうといった意気込みが感じられる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	防災対策については、年一回、隣接のデイサービスセンターと一緒に訓練を行っているが、地域との連携に関しては今後の課題となっている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が全員で取り組み、話し合いのもと管理者がまとめるといったやり方を取っている。この結果職員が現在の支援について自ら評価するように考えるようになってきており、今後の課題も明確になってきつつある。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議においては外部評価の結果等を報告し、改善について話を行うようにしているが、地域の方の出席が少なく、より積極的な地域への働きかけが望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月々「窪田たより」を作成し、家族に送付、今月の生活、通院状況、たのしみ等を報告している。又担当者から日常生活健康状態等を報告。家族の意見は言いやすい雰囲気を作るよう心がけていると同時に、運営推進会議の場でも意見を貰うようにしている。又第三者機関の活用も検討するようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が地元の小学校で行われる文化祭に作品を制作、展示しこれを見に行くようにしている。地域とのより密接な関係を心がけるようにしているが具体的にはこれからの段階となっている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを大切にします」という理念を持ち支援を行ってきたが、今回の自己評価を機会に「地域でのその人らしい暮らし」について職員間で理念の見直しに関し話し合いを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議で「日々の中で自分たちが目指す介護」について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学校の文化祭に利用者の作品を展示し見学に行く等の活動は行っているが、地域との連携に関してはこれからといった段階。	○	地域の住民やボランティア団体等との更なる連携、より積極的な地域とのかかわりが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が作成に取り組み、職員ミーティングを行いまとめた。作成の過程において職員の意識が変化が見られるようになってきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は管理者の変更等もあって、一時長期間開催されなかったが、現在は再開されている。参加者に関しては地域の代表の参加が少い。	○	運営推進会議に地域の方々の参加を促し、事業所がより地域との連携を強める努力をすることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給の関係から、運営推進会議への出席等を通じ、相談できる体制は作り上げられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と一緒に「窪田だより」を家族に送付、今月の生活、通院状況、たのしみ等を報告している。又担当者から日常生活健康状態等を報告		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方に運営推進会議に参加してもらい、家族の意見、思いを聴く機会を持つように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人スタッフには黙視的観察を行うことにより、介護抵抗を少なくなるように努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は希望すれば研修に参加しやすい環境にあり、外部研修に参加した場合は、報告書の作成と同時に、ミーティングで研修内容を報告。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成20年6月よりグループホーム連絡協議会に参加。ブロック会議や交換研修に参加することによりサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除を一緒に行うようになっており、また利用者の昔話を聞く、職員の相談相手になってもらう等コミュニケーション作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事のメニューは皆(利用者)で決めて、買い物に一緒に行って利用者が選べるようにしている。自由に意見が言えるような環境を作るよう努力をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやミーティングなどで話し合いを行い、家族とはケアマネージャーが話をしている。本人から希望を聞いたり、普段からも利用者が何を望んでいるかを一緒に考えて計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと同時に、変化があった時にはケアマネージャーと家族や医療機関と話をし変更するようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともとのかかりつけ医を継続できるようにしているが、緊急時には米沢市立病院と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	単身者の重度化が進む中、現在のところ、重度化、終末期に対応した方向性が未整備の状態となっている。	○	自分たちでどこまで対応できるかを事業所内で話し合い、又医療機関とも相談し、「重度化した場合の対応」といった方針を明確にし、指針を作成、利用者、家族と事前に話し合っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「もし自分だったら」という視点で取り組んでおり、記録作成の場所、申し送り、排泄の有無等プライバシーの確保に関しては積極的に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の思いを伝えられない利用者は職員のペースになりがちなので、声掛けや、愛犬との散歩などで利用者のペースで過ごせるような努力をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けについては、利用者と職員が一緒にやるような方向にある。買い物は一緒に行き、店の中を見て回ったり、商品を手にとって見たりと楽しみが出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で入浴できるようにしているが、職員の都合で時間帯が異なる時もあるが、なるべく希望にそえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しずつではあるが一人ひとりの生活歴に合わせてやれるように職員の意識がでてきた。本人が現役だった頃の喜びにふれる事が出来るような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は希望する一部の人のみであるが、他の利用者にも声がけするようになってきた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はいつでも外出できるようにしており、窓も鍵をかけていない。夜間は防犯の為に内側より鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練はデイサービスセンターと一緒に年一回行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にメニューを考えていただいたりすることで食欲が出るように努め、量の把握や水分量は確保している。画一的な栄養管理にならないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は少々狭いが季節の花を飾り、気持ちよく過ごせるような工夫が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた馴染の家具や好みのものは少ないが、住み慣れた環境のような居室作りをしている。居室の表札の敬称は「様」となっているがこれでいいか利用者と共に検討をするところである。		